

(論文博士) (様式 8)

石久保雅浩氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題目

主論文：

Relationships between daily life behaviors and physical activity measured using a triaxial accelerometer in elderly community-dwelling Japanese individuals

(3軸加速度計で測定した日本の地域在住高齢者の日常生活習慣と身体活動との関連)

Journal of Rural Medicine 15 (1) : (in press)

Masahiro Ishikubo, Tohru Yoshida

副論文：

群馬大学大学院保健学研究科博士後期課程単位修得退学者に対する論文審査基準の特例に関する申し合わせにより、副論文はなし

論文の要旨及び判定理由

主論文

これまでの高齢者の健康増進のための身体活動の研究は、散歩を含む運動に関する研究が大部分であり、生活活動も含めた身体活動に注目した研究は少ない。本研究では、地域在住の要介護認定のない65歳以上の高齢者(128名)を対象として、3軸加速度計を用いて身体活動量を運動量と生活活動量に分けて測定すること、そして、測定した身体活動量と調査票から得られた基本的属性や日常生活習慣との関連を検討することを目的とした。

107名が解析対象者となり、男性46名、女性61名、前期高齢者51名、後期高齢者56名であった。男性の身体活動量は平均37.9Ex/週(運動量16.4Ex/週、生活活動量21.5Ex/週)、女性の身体活動量は平均33.8Ex/週(運動量8.8Ex/週、生活活動量25.1Ex/週)であり、運動量のみ男性が有意に多かった。前期高齢者の身体活動量は平均40.0Ex/週(運動量14.6Ex/週、生活活動量25.4Ex/週)、後期高齢者の身体活動量は平均31.6Ex/週(運動量9.7Ex/週、生活活動量21.9Ex/週)であり、身体活動量及び運動量は前期高齢者で有意に多かった。また、階層的重回帰分析の結果から、高齢者の身体活動全般にとって歩数が大きな意味を持っていること、植物栽培は身体活動量及び生活活動量と有意な関連を認めること、頻繁な外出は生活活動量と有意な関連を認めることが明らかになった。同時に、調査票に申告された意図的・計画的な運動時間が、身体活動量や運動量に直接影響を及ぼさないことが示唆された。

本研究の成果は、高齢者の健康づくりのための身体活動を具体的に提言するための貴重な資料になると考えられる。したがって、本研究は今後の保健学の発展に寄与するものと認められ、博士(保健学)の学位に値するものと判定した。

令和元年12月13日

審査委員

主査	群馬大学教授（保健学研究科） 看護学 講座	大 山 良 雄	印
副査	群馬大学教授（保健学研究科） 看護学 講座	内 田 陽 子	印
副査	群馬大学教授（保健学研究科） 看護学 講座	大 庭 志 野	印

参考論文

1. なし